

製本のススメ

Vol. 153

春は別れと出会いの季節です。卒業 転勤など慣れ親しんだ場所や仕事から環境が変わるのは、楽しみでもあり不安でもあります。既に街には真新しいビジネススーツの若者たちが、学生気分満載で歩いていますね（笑）武運長久を祈ります。

今回は**背幅デザインと束があわない**の話し

表紙やカバーの背幅は 本来見本を実測して決められるものですので 背幅と束が合わない事はないはずですが 実際にはいくつかの原因で不具合の出る場合があります。

- ① 束幅の採寸を間違えた
- ② 使う用紙が変更になった
- ③ 本の束厚にバラツキがある
- ④ 表紙やカバーでくるむ時の位置合わせは「片側合わせ」になる

このうち①と②は 単純な不注意ですが③と④には少々厄介な問題があります。

実際に製本に携わっている人以外には あまり知られていませんが**大量に作られる本の厚みにはかなりのバラツキがあります**。例えば折丁の結束の仕方やその強さ又はパレットに積まれた時に、下積の折丁か上のほうにあった折丁かなどです。コート紙のように固い紙は多少良いですが ラフ紙のように軽くて厚みの出る用紙は二日間も積置きすると**プレスされて厚みが変わる**のです。

さて表紙くるみ機(バインダー)は**表紙を付ける際に背文字を中心にセッティングしているではありません**。**背文字センターから片側小口までの寸法(基準辺)でセット**しています。そのため束厚にバラツキがでると **そのバラツキ分は背の両側へ振り分けられるのではなく基準辺と反対側へそのまま出てきます**。カバーも同様ですが表紙の上に巻くので紙の厚み分が更に誤差を生みますので 表紙とカバー・腰帯の背幅は(厳密には)変えなくてはなりません。



Tea break

花粉の季節ですね。さてこの時期に手放せないのがティッシュです！皆さんはティッシュ箱の底にミツの切れ目があるのをご存知ですか？残り少なくなったティッシュを取り出しやすくするための物で、その名を「ティッシュアップ」と呼びます。各社オシャレで機能的な切れ目をデザイン研究しているそうです。さすが、ものづくり日本！見えない所にも使い良さの工夫がありますね。

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本